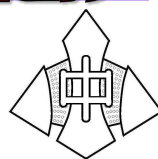


手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和4年2月4日（金）発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

“提案”と“激励”～後期生徒会総会 ズームで実施！

2月3日（木）の6校時には「後期生徒会総会」が行われました。今回は感染症対策として、ZOOMによるリモートでの実施となりました。今回は今年度の生徒会活動の総括と次年度に向けての課題等を明確にするのがねらいで、生徒会本部、専門委員会、部活動の年間活動報告や生徒会会計中間決算報告などの議事が行われました。生徒会長の凌りくなさんからは、生徒会スローガンの『一心同体』に込められた全校生が心をひとつにして小原田中をより良くしていこうという願いなどについて、原稿を見ない立派な挨拶がありました。また、質疑応答では、質問だけでなく建設的な提案がたくさん出されたことも今回素晴らしい点です。今、給食委員会では昼の放送で給食川柳に続き給食カルタを発表しています。この活動は市の給食センターも巻き込み、市全体に広がろう



会議室での議事をリモートで各教室に配信

としています。何よりも本校の給食の残食削減に繋がっている点が素晴らしいと思います。SDGsとの関連の深い食品ロス削減にも通じる取り組みです。こういった工夫を凝らした活動が大切なのです。

「生徒会で学校は変わる！」

これを主体的な行動目標として、次のように転換します。

「生徒会で学校を**変**える！」

「学校は」が「学校**を**」に変わるだけで、全く意味合いが変わってきます。

そして、「学校を**変**える」ためには、具体的に何をどのようにすればよいか、それを考え、行動に移していくのが、生徒会本部、各専門委員会、各部活動の役目だと思います。議事終了後に、前生徒会長の伊藤孝太郎君から“挨拶”について、生徒会本部役員への提案と、全校生に対して呼びかけがありました。温かい激励となって全校生に伝わったと思います。伊藤君の心意気に感謝します。



伊藤君からの呼びかけ

最後に、総会の準備・運営にあたってくれた生徒会役員、専門委員長、部活動部長、質問者の生徒のみんなに感謝します。ご苦労さまでした。

太郎さんからのメッセージ 放送！

みんなが書いてくれた講演ライブの感想を増田太郎さんに送りました。その返礼として、インターネットラジオ風に小原田中生のためだけに制作した特別なプログラムが送られてきました。題して、『TAROWAVE特別編～ありがとう小原田！60周年おめでとうスペシャル～』。あの感動の講演ライブの振り返りや何名かの生徒の感想の紹介、感想に対するコメントなど、30分にも及ぶ特番でした。2日間に分けて昼の放送で流しました。今、給食は“黙食”の形を取っていますが、生徒達は給食とともに太郎さんの特番もしっかり味わうことができたと思います。制限の多い学校生活ですが、太郎さんの明るくて温かいメッセージから元気をもらうことができました。まだ我々は太郎さんと繋がっていることを感じるとともに、我々のためだけの素晴らしい特番を作っていただいたことに深く感謝したいと思います。

最後に太郎さんが紹介してくれた言葉です。心に留めたい素敵な言葉です。

「あなたが未来に向かって一歩踏み出せば、未来もあなたに向かって一歩踏み出す！」



今年度も“お別れの会”と“卒業証書授与式”の2つをセットにした“卒業式”を実施します！

新型コロナウイルスの感染の影響により、卒業式は2年連続で規模縮小での実施となり、今年度こそは全校生が参加する通常の卒業式が実施できると考えていました。しかしながら、新型コロナウイルス感染の急拡大が続いており、今年度も規模縮小での実施という苦渋の決断となりました。今年度も昨年度同様、卒業証書授与式は卒業生と保護者の出席とし、もう一つの卒業式として、卒業生と在校生の“お別れの会”を実施する予定です。(今後の感染状況で変更となる場合もあります。)



昨年度の“卒業証書授与式”と“お別れ”の会

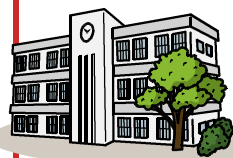
1 3月11日(金)の『卒業証書授与式』について

- ① 在校生の参加を取りやめる。代表生徒(生徒会長)のみ参加とする。
- ② 式は午後開催(13:30～)とする。卒業生は午後登校。在校生は午前登校。
- ③ 来賓の参加を取りやめる。PTA会長のみ参加とする。
- ④ 卒業生の保護者の参加は、各家庭2名までとする。

2 3月7日(月)の『お別れの会』について

(卒業生と在校生の交流、生徒会主催)

内容は、在校生から卒業生へ、卒業生から在校生・先生方へのメッセージ交換、全体合唱や校歌など、生徒会が主体となって会を進める。



“おかげさん(おかげさま)”の気持ちを“かたち”にして...

負ける人のおかげで勝てるんだよなあ。
後輩のおかげで先輩になれるんです。
買い手があるから売れるんです。売り手があるから買えるんです。
〈おかげさん〉でないものは、この世にひとつもありません。
みんな〈おかげさん〉で成り立っているんです。
自分が何かができるのは、誰かの〈おかげ〉なのかもしれません。
自分のまわりにあるものは、誰かの〈おかげ〉であるのでしょうか。
自分のまわりの人の〈おかげ〉で助かっていることがいろいろあるのです。



相田みつをさんの書と言葉です。卒業式を間近に控えた3年生、そして、小原田中のこれからを担う1・2年生、それぞれの立場で、この「おかげさん」言い換えれば「おかげさま」という言葉を、今だからこそかみしめ前へと進んでほしいと思います。「おかげさま」という言葉とその意味は、とても日本的で奥ゆかしさのある響きだと思えます。この「おかげさま」という言葉は、仏教が説く「諸法無我(しょほうむが)」の教えに由来しています。「世の中のもの」は全て単独で存在しているのではなく、かかわりの中で生きている」という教えです。「人間」は、仏教では「じんかん」と読み、人はかかわりによって間柄を持ち「人間」になる、という教えがあります。自分が自分として存在できるのは、まさに他者の「おかげさま」ということです。

3年生は、お父さんやお母さんをはじめとする家族、先生方、後輩、そして仲間に対して、1・2年生は、卒業する3年生に対しての「おかげさま」という気持ちを“かたち”にしてほしい。それが、2つの卒業式の臨むべき姿であり、卒業式への意味付けになると思います。



今年度も昨年度同様、全校生での式の練習は行いません。2・3年生は、自分の番以外、卒業式に出席することがないという異例の事態ですが、自分達ができる準備をしっかりと実行していきましょう。卒業証書授与式に向けては、3年生が学年練習を行っていきます。そして、式歌とお別れの会の歌の練習は、感染症対策を講じながら音楽の授業を中心に行います。少ない練習時間だからこそ、「おかげさま」という気持ちをしっかり込めて、その時間を大切に集中して取り組んでほしい。そうすれば、きっと心に残る素晴らしい卒業式が実現できると思います。

